

問 43 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

小学生や中学生のころは、友達とお小遣いこづかの話をよくしました。仲のよい友達と、ひと月のお小遣いがいくらぐらいなのか、親からもらうお小遣いには何が含まれるのかを話したりしました。お互いに情報交換することで、親にお小遣いの額を増やしてもらえよう交渉こうしょうする材料をそろえたものです。(中略)

高校生や大学生になってアルバイトを始めると、親からもらうお小遣いの話ではなく、自分の職場の時給や、ひと月に稼ぐアルバイト代かせについて話すようになります。同じコンビニのアルバイトなのに、友達のところが自分よりも時給が高かったりすると (A)。時給が高くて、肉体的につらいアルバイトや、深夜から朝にかけてのアルバイトだと、そこまでしてお金を稼ごうとは思わなかったりもします。(中略)

しかし会社しやうしやくに就職すると、突然、お互いの給料やボーナスの話をしなくなります。どうしてなのでしょう。僕は三つくらい理由があるのではないかと思います。

一つ目は、同じ年齢なのに給料の差がかなり大きいからではないでしょうか。月給とボーナスを合わせると年間で数十万、場合によっては数百万円の差が出てしまうことも珍しくありません。もちろん、それだけの成果をあげていたり、たくさん残業したりしているのかもしれませんが、みんな自分の会社で一生懸命けんめいに働いているわけです。それなのに、友達と給料の額がすごく違っていたら悲しいし、腹が立つかもしれません。

二つ目の理由は、アルバイトのように簡単に仕事を替えるのは難しいということです。どんなに友達の会社の方が給料が高いという話を聞いても、その会社にすぐ転職できることなど稀まれだからです。(中略) それに、給料が高いからとか、友達が働いているからという理由で転職するような人を雇う会社もありません。もっとよい会社を見つけたら、やっぱりそちらに転職してしまう人を雇いたいとは思わないでしょう。

三つ目は、お金によって友情が台無しになるのが怖いからです。これまでは持っているお金の額もそんなに違いがないわけですから、どこへいっても*割り勘わりかんだったりします。友達があなたを遊びあそびに誘うときだって、どこで何をするかなんてそこまで気を遣つかいません。しかし、もらっている給料があまりにも違うことを互いに知ってしまったら……。どんなに一緒だったら楽しいと思っても、相手の気持ちではなく、相手の*懐なごころを気にして誘えなかったりしてしまいます。これまで築いてきた人間関係を壊こわしたくない、だからお金に関するプライベートな話はできるだけ避けるようになるわけです。

(工藤啓『16才のための暮らしワークブック』主婦の友社より)

* 懐^{ふところ}：胸の内ポケット

* 割り勘^{わかん}：何人かで食事などをしたとき、かかった金額を人数で割って支払うこと。

I (A) に入るものとして最も適当なものはどれですか。

1. うれしくなります
2. 不安になります
3. 元気になります
4. がっかりします

II 「相手の懐^{ふところ}を気にして」とは、どんな意味ですか。

1. 相手がどんなことを考えているかを気にして
2. 相手がどのくらいお金を持っているかを気にして
3. 相手の好きな遊びかどうかを気にして
4. 相手の好きな食べ物かどうかを気にして

III 会社に就職^{しゅうしょく}すると、突然お金の話をしなくなる理由として、違うものはどれですか。

1. 親からお小遣^{こづか}いをもらうことがなくなってしまうから。
2. 同じ年齢なのに給料の額がすごく違うことがあるから。
3. 友達との関係が壊^{こわ}れてしまうのがいやだから。
4. 簡単に転職することは難しいから。

問 13

司馬遼太郎の本をよく読んだ後、筆者の考えはどうになりましたか。

世の中には、水に浮かぶ人間と浮かばない人間の2種類があるようだ。で、私は後者。要するに、ろくに泳げない。だから、海やプールは極力避けて生きているのだが、この夏は、もうしょ猛暑に負けて、近所の公営プールに行った。水に入ったのは何年ぶりだろう。

4、5歳の子が、ばた足の練習をしているのを見て、自分もやってみようと思立った。ビート板をつかみ、体を伸ばして水をかけた。すると、やはり足からじわじわと沈んでいく。「沈むはずなのに」と首をかしげる家族に、先ほどの「人間2種類論」を披露し、浮かばないタイプは「人間としての密度が高いからだ」などと解説してみた。まあ、説得力はないようだった。

そんな折、司馬遼太郎の本を読んでこれだと思った。「水底までずっしりと沈んでしまうほどに自我の目方が重い」という表現を見つけたからだ。大作家の力を借りて、自分の説を強めるつもりだった。ところが、よく読むと、自尊心ばかりが強く、鼻持ちならない人間を評していることが分かった。なるほど。もう少し、浮かぶ努力をしてみようかな。

(毎日新聞 2004年8月23日より)

1. 自分が浮かばない人間であることを再確認した。
2. 「人間2種類論」が正しいことを確かめられた。
3. 大作家の力を借りて家族を説得しようと思った。
4. 浮かぶ人間になるための努力をしようと思った。